



2021 11.15 ▶ 2022 1.19

金沢大学資料館展示室
(角間キャンパス北地区金沢大学
中央図書館・資料館棟)
・時間：午前 10 時 - 午後 4 時

- ・休館日：土日祝日 ※その他金沢大学中央図書館のスケジュールに準ずる
(年末年始 12月29日～1月3日)
- ・問合せ先：金沢大学資料館
- ・TEL:076-264-5215



本展示は、学芸員資格取得を目指す学生たちが企画したものです。今回の企画展では「光をシコウする」と題し、光のもつ物理的側面、精神的側面の両方に着目します。先人たちは光をどのように理解し、活用し、表現したのでしょうか。3つの「シコウ」を切り口に、前身校の実験機器から西洋美術までの光に関する資料から、先人の試みをご紹介します。日常が揺らぎ、先の見えない今だからこそ、先人たちの「光」そして自分の中の「光」を見つめ直してみませんか。



第一章 試行

実験, 観察, 考察.....

先人たちは目の前にあった光を“ためす”ことで、科学的な理解を深めていった。



『三稜柱硝子』:「三稜柱硝子」(明治11年:文部省贈), 別名プリズム。光を“分ける”実験道具。

先人たちは、光を生活に取り込むことを“こころざし”, いろいろな目的に合わせて活用した。

第二章 志向



『デクルロー・ネットル』:
四高の教授が所有していたクラップカメラ。来日中のアインシュタインを撮影したことも。

第三章 思考

光を表現の手段として用いた先人たち。彼らは、何を“おもい”, 何を“かんがえ”て「光」を作り出したのか。

『水彩による原寸大模写「聖フランチェスコ」(イタリアフィレンツェ サンタクローチェ教会大礼拝堂アーチ右壁面「フランチェスコの聖痕拝受」)』: 聖痕を拝受する聖フランチェスコ。資料は大村正章教授による同教会の壁画模写。



ミュージアムツアー開催予定

新型コロナウイルスの流行状況に応じて中止となる可能性があります。ご了承ください。

資料館ウェブサイト



アクセス



最新情報は金沢大学資料館ウェブサイトをご覧ください。

北鉄バス「金沢大学」行き乗車「金沢大学中央」バス停下車・徒歩5分
JR 金沢駅からの所要時間 40分